

事後評価書（完了後の評価）

都道府県名	島根県	関係市町村	隠岐の島町
事業名	水産資源環境整備事業（水産生産基盤整備事業）		
地区名	加茂	事業主体	島根県

I 基本事項

1. 地区概要			
漁港名（種別）	加茂漁港（第2種）他	漁場名	—
陸揚金額	14 百万円	陸揚量	8.2 トン
登録漁船隻数	122 隻	利用漁船隻数	132 隻
主な漁業種類	まき網、釣り、採貝、かき類・わかめ類養殖	主な魚種	めばる類、いわがき、さざえ、なまこ類、わかめ
漁業経営体数	19 経営体	組合員数	228 人
地区の特徴	当地区は、隠岐諸島島後の南端部に位置する漁港で、加茂漁港、今津漁港の2地区からなっている。両漁港沖合の島後水道は水深が深く、潮流も早いことから多くの魚種が生息、日本海屈指の好漁場となっている。加茂漁港は古くからイカ釣り、和船巾着網、まき網を中心に栄え、現在では中型まき網漁業の基地港となっている。今津漁港ではわかめ養殖が行われており、地域のブランド品となっている「今津わかめ」の加工・生産拠点となっている。		
2. 事業概要			
事業目的	加茂漁港の水産業は隠岐島後では西郷に次ぐ実績を有している。特に中型まき網は加茂地区の中心的な漁業として営まれているが、係留施設が不足しており、漁業活動に支障をきたしている。 今津漁港は開口部が広く、また港口付近が急に深くなるなど地形的要因で南西からの波浪、台風等の荒天時に波が収斂することにより港内の静穏度が悪く地元漁船の安全係留に支障をきたしている。 これらの状況を改善するため、施設整備を行い、安全で効率的な水産物の供給体制の確保を図るものである。		
主要工事計画	【加茂漁港】 -5.0m岸壁 L=128.1m、道路 L=197.3m、埋立 A=4,025.5㎡、 護岸 L=31.2m、護岸 L=7.7m 【今津漁港】 沖防波堤（改良） L=60.1m、-4.5m航路 A=19,150㎡、 -4.0m泊地 A=4,950㎡、護岸（-4.5m航路） L=617.8m、 船揚場 L=15m、-3.0m岸壁 L=193m、護岸 L=18.6m、 道路 L=1,088.4m、道路 L=161m、用地 A=2,366㎡		
事業費	5,073百万円	事業期間	平成14年度～平成23年度

II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	
	本事業のうち、平成13年度の採択時に事前評価を実施し、経済効果の妥当性について評価を行った。その際の分析の算定基礎になった今津漁港の利用については、養殖経営体の減少や遊漁案内船の廃止等による利用率の低下により費用便益比率も減少している。
2. 事業効果の発現状況	
	事業実施以前は、係留施設不足や港内静穏度が十分確保されていなかったことから、安全で円滑な漁業活動に支障があった。本事業により、安全性の向上や漁業活動の効率化等が図られた。

3. 事業により整備された施設の管理状況				
本事業により整備された施設は、漁港管理者である島根県が漁港漁場整備法第26条の規定に基づき漁港管理規定を定め、これに従い適正に漁港の維持、保全及び運営その他の維持管理を行っている。				
4. 事業実施による環境の変化				
施設の整備に伴う漁港内の静穏域の確保により、水産生物の生息域が広がり、釣り等の海洋性レクリエーションの場を創出し、周辺住民の新たな余暇活動の場として活用されている。				
5. 社会経済情勢の変化				
当該漁港における漁業経営体数は平成10年には50であったが、過疎化、高齢化等による人口減少に伴い、平成25年には27まで減少している。また、平成18年には今津漁協を含め島根県内の沿海20漁協が合併した。				
6. 今後の課題				
施設整備は概成したが、効果を長期的に発現させていくため、施設の長寿命化対策と計画的な維持管理が重要となる。また、漁業従事者が減少傾向にあるため、魅力ある漁業環境を形成し、後継者・新規就業者を確保していくことが求められる。				
7. 事業の投資効果が十分見込まれたか				
平成27年評価時の 費用便益比B/C	1.03	現時点の B/C	1.01	※別紙「費用対効果分析 集計表」のとおり

Ⅲ 総合評価

本事業では、漁業活動における安全・安心の確保、漁業活動の効率化及び利便性の向上を図るため、外郭施設の改良や水域・係留施設の整備等を行った。また、貨幣化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、1.0を超えており、経済効果についても確認されている。さらに、貨幣化が困難な効果についても、ブランドわかめの継承や、地域雇用の創出など副次的効果の発現が見られる。

以上の結果から、本事業は当該地区において漁業経営の安定及び地域振興へ寄与したものとなっており、事業効果の発現が認められた。

費用対効果分析集計表

1 基本情報

都道府県名	島根県	地区名	加茂
事業名	水産生産基盤整備事業	施設の耐用年数	50年

2 評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の 評価項目 及び 便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	6,653,752
②漁獲機会の増大効果				千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果			185,808	千円
④漁獲物付加価値化の効果				千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就業者の労働環境改善効果	667,581	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果	79,699	千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果	2,197,352	千円
		⑨避難・救助・災害対策効果		千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果	228,012	千円
その他		⑬施設利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他	28,215	千円
	計（総便益額）	B	10,040,419	千円
	総費用額（現在価値化）	C	9,973,201	千円
	費用便益比	B / C	1.01	

3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

わかめ養殖経営体が減少する中、地元企業がわかめ養殖業へ参入することにより、地域ブランドの継承、高齢者の就労機会の増大、地域雇用創出等の効果の発現が見られる。
また、同地区・同時期に実施された、隠岐空港建設事業等と連携し事業間調整を図ることで、これら事業全体のコスト縮減や早期完成が実現でき、隠岐全体の地域振興に寄与することとなった。

水産生産基盤整備事業 加茂地区 事業概要図

加茂漁港



事業主体：島根県

漁港名：第2種 加茂漁港

主要工事計画：-5.0m岸壁128.1m、
道路197.3m、埋立4,025.5^m₂、護岸31.2m

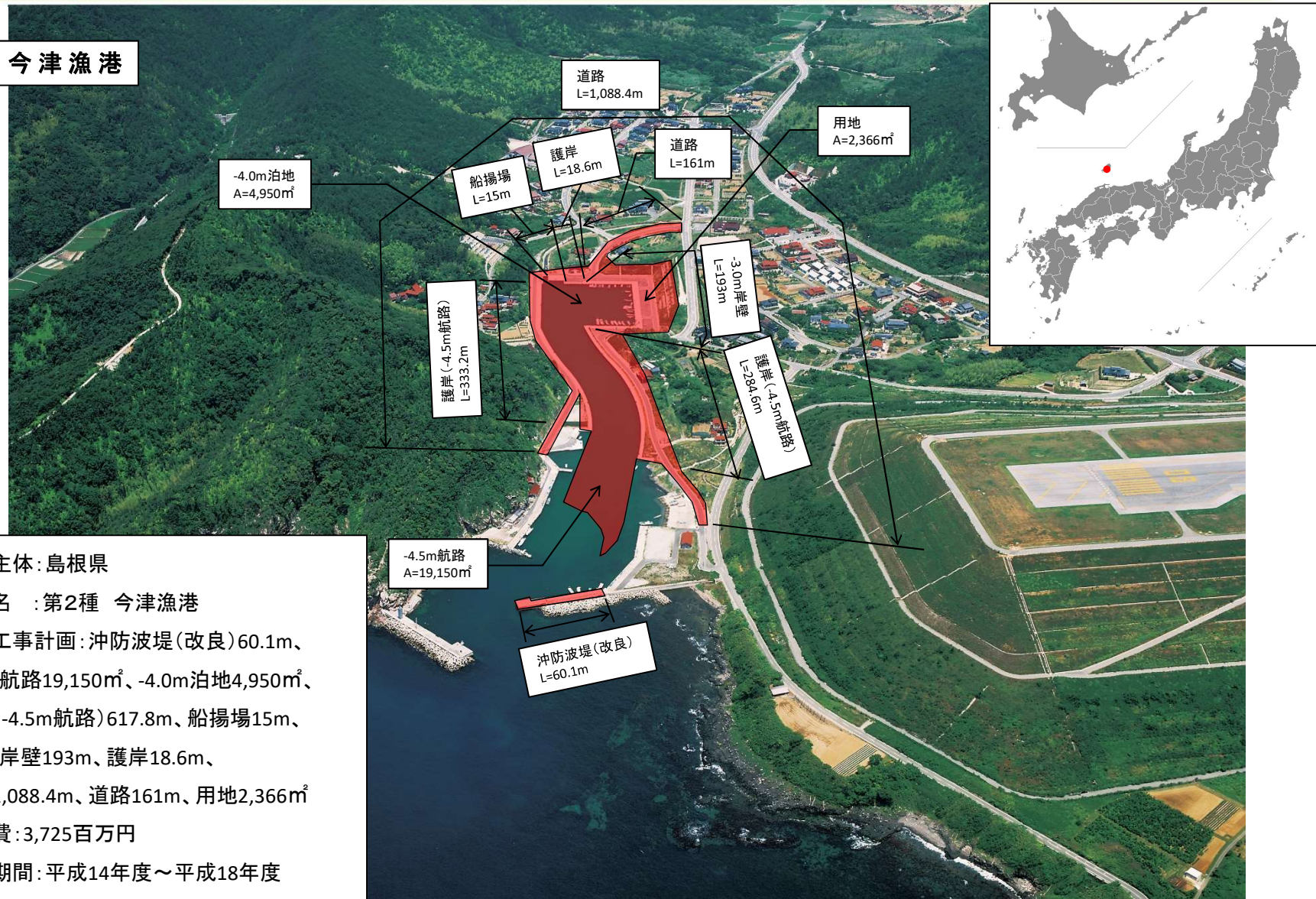
護岸7.7m

事業費：1,348百万円

事業期間：平成14年度～平成23年度

水産生産基盤整備事業 加茂地区 事業概要図

今津漁港



事業主体: 島根県
漁港名 : 第2種 今津漁港
主要工事計画: 沖防波堤(改良)60.1m、
-4.5m航路19,150㎡、-4.0m泊地4,950㎡、
護岸(-4.5m航路)617.8m、船揚場15m、
-3.0m岸壁193m、護岸18.6m、
道路1,088.4m、道路161m、用地2,366㎡
事業費: 3,725百万円
事業期間: 平成14年度~平成18年度

加茂地区 水産生産基盤整備事業の効用に関する説明資料

1. 事業概要

- (1) 事業目的： 加茂漁港の水産業は隠岐島後では西郷に次ぐ実績を有している。特に中型まき網は加茂地区の中心的な漁業として営まれているが、係留施設が不足しており、漁業活動に支障をきたしている。
今津漁港は開口部が広く、また港口付近が急に深くなるなど地形的要因で南西からの波浪、台風等の荒天時に波が収斂することにより港内の静穏度が悪く、地元漁船の安全係留に支障をきたしている。
これらの状況を改善するため、施設整備を行い、安全で効率的な水産物の供給体制の確保を図るものである。
- (2) 主要工事計画： 【加茂漁港】
-5.0m岸壁 L=128.1m、道路197.3m、埋立 A=4,025.5㎡、護岸 L=31.2m、護岸 L=7.7m
【今津漁港】
沖防波堤（改良） L=60.1m、-4.5m航路 A=19,150㎡、-4.0m泊地 A=4,950㎡、護岸（-4.5m航路） L=617.8m、船揚場 L=15m、-3.0m岸壁 L=193m、護岸 L=18.6m、道路 L=1,088.4m、道路 L=161m、用地 A=2,366㎡
- (3) 事業費： 5,073百万円
- (4) 工期： 平成14年度～平成23年度

2. 総費用便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括

「水産基盤整備事業費用対効果分析ガイドライン」（平成29年4月改訂 水産庁）及び同「参考資料」（平成30年5月改訂 水産庁）等に基づき算定

区分	算定式	数値
総費用（現在価値化）	①	9,973,201（千円）
総便益額（現在価値化）	②	10,040,419（千円）
総費用総便益比	②÷①	1.01

(2) 総費用の総括

施設名	整備規模	事業費（千円）
【加茂漁港】		
-5.0m岸壁	L= 128.1m	906,327
道路	L= 197.3m	13,767
埋立	A= 4,025.5㎡	418,854
護岸	L= 31.2m	3,399
護岸	L= 7.7m	5,839
【今津漁港】		
沖防波堤（改良）	L= 60.1m	126,320
-4.5m航路	A= 19,150.0㎡	677,392
-4.0m泊地	A= 4,950.0㎡	220,070
護岸（-4.5m航路）	L= 617.8m	1,732,437
船揚場	L= 15.0m	13,900
-3.0m岸壁	L= 193.0m	217,693
護岸	L= 18.6m	9,200
道路	L= 1,088.4m	589,362
道路	L= 161.0m	66,491
用地	A= 2,366.0㎡	72,300
計		5,073,351
維持管理費等		76,100
総費用（消費税込）		5,149,451
内、消費税額		246,998
総費用（消費税抜）		4,902,453
現在価値化後の総費用		9,973,201

(3) 年間標準便益

効果項目	区分	年間標準便益額 (千円)	効果の要因
水産物生産コストの削減効果		220,442	<p>【加茂漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> -5.0m岸壁の整備による係留作業時間の短縮 -5.0m岸壁背後用地整備による網作業時間の短縮 -5.0m岸壁背後用地整備による給油作業時間の短縮 -5.0m岸壁の整備による移動時間の短縮 -5.0m岸壁の整備による漁船の入れ替え時間の短縮 -5.0m岸壁の整備による養殖漁業の作業時間の短縮 出入港待ち時間の削減 点検作業時間の削減 -5.0m岸壁整備に伴う漁船修理費の削減 -5.0m岸壁整備に伴う漁船の耐用年数の増加 <p>【今津漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出漁準備・片付け時間の短縮 陸揚げ時間の短縮 係留作業時間の短縮 養殖物の加工作業時間の短縮 荒天時監視作業時間の削減 漁具等の維持管理作業時間の削減 漁獲物の搬送時間の短縮 漁具の搬送時間の短縮 漁獲物の一時保管場所の移動による盗難被害削減 養殖物の搬送時間の短縮 給油車による燃料運搬時間の短縮 清掃作業の削減 他港への避難による回航経費の削減 通勤時間の短縮による経費の削減 転覆船の補修経費の削減 清掃作業による廃棄物処理の削減 網の落下被害の減少 浚渫費用の削減効果 係留資材購入費の削減 漁船耐用年数の延長効果 遊漁船耐用年数の延長効果
漁獲可能資源の維持・培養効果		5,402	<p>【今津漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワカメ養殖への企業体の参入
漁業就業者の労働環境改善効果		22,685	<p>【加茂漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> -5.0m岸壁整備に伴う係留作業時間の短縮 -5.0m岸壁背後用地整備による網作業時間の短縮 -5.0m岸壁整備による養殖漁業作業時間の短縮 <p>【今津漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁港施設の整備による労働環境改善効果 臨港道路の拡幅整備による労働環境改善効果 港内清掃作業時間の減少による労力の減少効果
生活環境改善効果		2,317	<p>【今津漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路整備による一般住民の利便性の向上
生命・財産保全・防御効果		63,884	<p>【今津漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 堀込漁港の整備に伴う住宅の耐用年数の増加 堀込漁港の整備に伴う車両の耐用年数の増加 堀込漁港の整備に伴う公共公益施設等の耐用年数の増加 堀込漁港の整備に伴う水産倉庫等の耐用年数の増加
地域文化保全・継承効果		7,258	<p>【加茂漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁港施設の整備に伴う利用客の増加 <p>【今津漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁港施設の整備に伴う利用客の増加
その他		998	<p>【加茂漁港】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土造成便益
計		322,986	

(4) 費用及び便益の現在価値算定表

評価期間	年度	割引率 ①	デフ レータ ②	費用 (千円)			便益 (千円)								計 ④	現在価値 (千円) ①×④
				事業費 (維持管理 費含む) ⑤	事業費 (税抜) ⑥	現在価値 (維持管理 費含む) ①×②×③	水産物 生産コスト 削減効果	漁獲可能資源 の維持・培養 効果	漁業就労者 の労働環境 改善効果	生活環境 改善効果	生命・財産 保全・防御 効果	地域文化 保全・継 承効果	その他			
														④		
-16	14	1.873	1.197	900,100	857,238	1,921,911									0	0
-15	15	1.801	1.222	1,057,520	1,007,162	2,216,584									0	0
-14	16	1.732	1.224	913,473	869,974	1,844,317	5,941		234						6,175	10,695
-13	17	1.665	1.223	974,523	928,117	1,889,920	5,941		234						6,175	10,281
-12	18	1.601	1.199	663,642	632,040	1,213,263	5,941		234						6,175	9,886
-11	19	1.539	1.210	75,069	71,494	133,135	64,647	5,402	4,120	2,317	63,884	3,725		144,095	221,762	
-10	20	1.480	1.207	1,119	1,066	1,904	64,647	5,402	4,120	2,317	63,884	3,725		144,095	213,261	
-9	21	1.423	1.133	101,119	96,304	155,267	64,647	5,402	4,120	2,317	63,884	3,725		144,095	205,047	
-8	22	1.369	1.089	365,980	348,552	519,636	64,647	5,402	4,120	2,317	63,884	3,725		144,095	197,266	
-7	23	1.316	1.130	26,791	25,515	37,943	64,647	5,402	4,120	2,317	63,884	3,725		144,095	189,629	
-6	24	1.265	1.090	1,522	1,450	1,999	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	408,577	
-5	25	1.217	1.094	1,522	1,450	1,931	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	393,074	
-4	26	1.170	1.047	1,522	1,409	1,726	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	377,894	
-3	27	1.125	1.029	1,522	1,409	1,631	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	363,359	
-2	28	1.082	1.026	1,522	1,409	1,564	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	349,471	
-1	29	1.040	1.000	1,522	1,409	1,465	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	335,905	
0	30	1.000	1.000	1,522	1,409	1,409	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	322,986	
1	31	0.962	1.000	1,522	1,409	1,355	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	310,713	
2	32	0.925	1.000	1,522	1,409	1,303	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	298,762	
32	62	0.285	1.000	1,522	1,409	402	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	92,051	
33	63	0.274	1.000	1,522	1,409	386	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	88,498	
34	64	0.264	1.000	1,522	1,409	372	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	85,268	
35	65	0.253	1.000	1,522	1,409	356	220,442	5,402	22,685	2,317	63,884	7,258	998	322,986	81,715	
36	66	0.244	1.000	1,484	1,374	335	214,501	5,402	22,451	2,317	63,884	7,258	998	316,811	77,302	
37	67	0.234	1.000	1,484	1,374	322	214,501	5,402	22,451	2,317	63,884	7,258	998	316,811	74,134	
38	68	0.225	1.000	1,480	1,370	308	214,501	5,402	22,451	2,317	63,884	7,258	998	316,811	71,282	
39	69	0.217	1.000	403	373	81	155,795		18,565			3,533	998	178,891	38,819	
40	70	0.208	1.000	403	373	78	155,795		18,565			3,533	998	178,891	37,209	
41	71	0.200	1.000	403	373	75	155,795		18,565			3,533	998	178,891	35,778	
42	72	0.193	1.000	403	373	72	155,795		18,565			3,533	998	178,891	34,526	
43	73	0.185	1.000	131	121	22	155,795		18,565			3,533	998	178,891	33,095	
計				5,149,451	4,902,453	9,973,201	計									10,040,419

※評価期間は、便益対象施設が複数ある場合、各施設の整備毎に効果が発生するものとして算定

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

3. 効果額の算定方法

【ヒアリング概要】

・加茂漁港

調査日：平成30年11月1日、調査場所：JFしまね加茂出張所、調査対象者：JFしまね西郷支所長他3名

調査実施者：島根県隠岐支庁水産局職員、調査実施方法：ヒアリング調査

※加茂漁港ヒアリング項目については、以下「ヒアリング」と記載。

・今津漁港1

調査日：平成28年1月22日、調査場所：島根県隠岐支庁水産局、調査対象者：今津地区漁業者及び区長(住民代表)(計2名)

調査実施者：島根県隠岐支庁水産局職員及び業務委託受注会社職員、調査実施方法：ヒアリング調査

※今津漁港①ヒアリング項目については、以下「ヒアリング1」と記載。

・今津漁港2

調査日：平成28年1月21日、調査場所：ワカメ養殖会社事務所内、調査対象者：ワカメ養殖会社職員(計2名)

調査実施者：島根県隠岐支庁水産局職員及び業務委託受注会社職員、調査実施方法：ヒアリング調査

※今津漁港②ヒアリング項目については、以下「ヒアリング2」と記載。

(1) -1 水産物生産コストの削減効果 【加茂漁港】

1) -5.0m岸壁の整備による係留作業時間短縮

-5.0m岸壁整備後は、-5.0m岸壁へ漁業会社A旋網船団が係留場所を移動する。漁業会社Bの旋網運搬船は漁業会社Aの移動により、漁業会社A等との係留調整が不要となった。また、充足が不足し道路護岸に係留していた小型漁船は元々漁業会社Aが係留していた係留岸に係留可能となった。

・漁業会社A旋網船団(運搬船以外；引船、網船、灯船)

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	6	ヒアリング
作業人数(計)	(人)	②	25	ヒアリング
年間係留作業回数	(回/年)	③	200	ヒアリング
準備・出漁作業時間	整備前	(時間/回)	④	1.0
	整備後	(時間/回)	⑤	0.5
係留作業時間	整備前	(時間/回)	⑥	0.7
	整備後	(時間/回)	⑦	0.3
延べ作業時間	整備前	(時間/回)	⑧	④+⑥
	整備後	(時間/回)	⑨	⑤+⑦
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		14,139	②×③×(⑧-⑨)×⑩

・漁業会社A旋網船団(運搬船)

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	1	ヒアリング
作業人数	(人)	②	8	ヒアリング
年間係留作業回数	(回/年)	③	120	ヒアリング
準備・出漁作業時間	整備前	(時間/回)	④	1.0
	整備後	(時間/回)	⑤	0.5
係留作業時間	整備前	(時間/回)	⑥	0.7
	整備後	(時間/回)	⑦	0.3
延べ作業時間	整備前	(時間/回)	⑧	④+⑥
	整備後	(時間/回)	⑨	⑤+⑦
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,715	②×③×(⑧-⑨)×⑩

・漁業会社B旋網船団(運搬船)

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	1	ヒアリング
作業人数	(人)	②	6	ヒアリング
年間係留作業回数	(回/年)	③	120	ヒアリング
準備・出漁作業時間	整備前	(時間/回)	④	0.5
	整備後	(時間/回)	⑤	0.3
係留作業時間	整備前	(時間/回)	⑥	0.5
	整備後	(時間/回)	⑦	0.3
延べ作業時間	整備前	(時間/回)	⑧	④+⑥
	整備後	(時間/回)	⑨	⑤+⑦
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		905	②×③×(⑧-⑨)×⑩

・小型漁船

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	27	ヒアリング	
作業人数(計)	(人)	②	41	ヒアリング	
年間係留作業回数	(回/年)	③	200	ヒアリング	
準備・出漁作業時間	整備前	(時間/回)	④	0.5	ヒアリング
	整備後	(時間/回)	⑤	0.2	ヒアリング
係留待ち時間	整備前	(時間/回)	⑥	0.5	ヒアリング
	整備後	(時間/回)	⑦	0	ヒアリング
係留・荷揚作業時間	整備前	(時間/回)	⑧	0.5	ヒアリング
	整備後	(時間/回)	⑨	0.2	ヒアリング
延べ作業時間	整備前	(時間/回)	⑩	1.5	④+⑥+⑧
	整備後	(時間/回)	⑪	0.4	⑤+⑦+⑨
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑫	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		28,341	②×③×(⑩-⑪)×⑫	

2) -5.0m岸壁背後用地整備による網作業時間短縮

-5.0m岸壁背後用地の整備により、漁業会社Aと刺網漁業者間の網作業の分業化が図られた。(元々はひとつの用地で作業調整していた。)

・漁業会社A旋網船団

区分				備考	
作業人数	(人)	①	33	ヒアリング	
年間網作業回数	(回/年)	②	60	ヒアリング	
網作業時間	整備前	(時間/回)	③	8	ヒアリング
	整備後	(時間/回)	④	4	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		24,885	①×②×(③-④)×⑤	

・小型漁船(刺網)

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	15	ヒアリング	
作業人数	(人/隻)	②	2	ヒアリング	
年間網作業回数	(回/年)	③	10	ヒアリング	
網作業時間	整備前	(日/回)	④	10	ヒアリング
	整備後	(日/回)	⑤	5	ヒアリング
1日当り作業時間	(時間/日)	⑥	8	ヒアリング	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		37,704	①×②×③×((④-⑤)×⑥)×⑦	

3) -5.0m岸壁背後用地整備による給油作業時間の短縮

給油施設付近の-4.0m岸壁には旋網運搬船2隻(漁業会社A,B)が係留していたため、給油作業のために係船する場合は漁船の入れ替えを要していた。

-5.0m岸壁の整備により、運搬船1隻が移動したため、給油時の係船スペースが常時確保され、漁船の入れ替え等にかかる時間が短縮された。

・漁業会社A旋網船団(運搬船以外;引船、灯船)

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	3	ヒアリング	
作業人数(計)	(人)	②	6	ヒアリング	
年間給油回数	(回/年)	③	60	ヒアリング	
給油作業時間	整備前	(時間/回)	④	0.7	ヒアリング
	整備後	(時間/回)	⑤	0.3	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		452	②×③×(④-⑤)×⑥	

・漁業会社B旋網船団(運搬船以外;引船、網船、灯船)

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	3	ヒアリング	
作業人数(計)	(人)	②	6	ヒアリング	
年間給油回数	(回/年)	③	60	ヒアリング	
給油作業時間	整備前	(時間/回)	④	0.5	ヒアリング
	整備後	(時間/回)	⑤	0.25	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		283	②×③×(④-⑤)×⑥	

4) -5.0m岸壁の整備による移動時間の短縮

整備前は航路が狭く小型漁船も多数係留していることから出漁・帰港時に時間を要していたが、-5.0m岸壁の整備によりそれが解消され航行時間が短縮された。

・漁業会社A旋網船団（運搬船以外；引船、網船、灯船）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	6	ヒアリング
年間出漁・帰港回数 (片道)	(回/年)	②	200	ヒアリング
出漁・帰港航行時間 (片道)	整備前	(時間/回)	③	0.34
	整備後	(時間/回)	④	0.17
出漁・帰港航行時間 (往復)	整備前	(時間/回)	⑤	③×2
	整備後	(時間/回)	⑥	④×2
漁船時間価値	(円/隻/時間)	⑦	3,800	港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル (H29.3)
年間便益額	(千円/年)		1,550	①×②×(⑤-⑥)×⑦

5) -5.0m岸壁の整備による漁船の入れ替え時間の短縮

漁業会社Aの灯船等は、整備前は2列横付け係留（縦付けとすると背後水域を塞いでしまう）していたため、漁船修理時等に船の入れ替えが生じていたが、

-5.0m岸壁整備によりそれが解消された。

・漁業会社A旋網船団（引船、灯船）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	4	ヒアリング
作業人員 (計)	(人)	②	8	ヒアリング
入れ替え回数	(回/年)	③	20	ヒアリング
入れ替え時間	(時間/回)	④	0.33	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		166	②×③×④×⑤

6) -5.0m岸壁の整備による養殖漁業の作業時間の短縮

養殖漁業を営んでいる漁船は縦付け係留で準備・荷揚げ等の作業を行っていたが、旋網船団が-5.0m岸壁へ移動したため、横付けで作業が行えるようになった。

・いわがき養殖

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	2	ヒアリング
作業人数	(人/隻)	②	2	ヒアリング
年間作業回数	(回/年)	③	150	ヒアリング
作業所要時間	整備前	(時間/回)	④	3.0
	整備後	(時間/回)	⑤	1.5
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,828	①×②×③×(④-⑤)×⑥

・わかめ養殖

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	2	ヒアリング
作業人数	(人/隻)	②	2	ヒアリング
年間作業回数	(回/年)	③	60	ヒアリング
作業所要時間	整備前	(時間/回)	④	2.0
	整備後	(時間/回)	⑤	1.0
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		754	①×②×③×(④-⑤)×⑥

7) 出入港待ち時間の削減

旋網船団の出港・帰港時に発生する航走波により、出港・帰港しようとしていた小型漁船に待ち時間が発生していたが、旋網船団が-5.0m岸壁に係留場所を移動したことで、静穏が保たれ、小型漁船の待ち時間が短縮された。

・小型漁船

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	41	ヒアリング
作業人員	(人)	②	1.5	ヒアリング(1~2人; 平均1.5人/隻)
年間出漁日数	(日/年)	③	200	ヒアリング
出入港所要時間	整備前	(時間/回)	④	0.34
	整備後	(時間/回)	⑤	0.17
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		6,570	(①×②×③)×(④-⑤)×⑥

8) 点検作業時間の削減

小型漁船は、整備前は道路護岸（係留施設でない）が、旋網船団が-5.0m岸壁に係留場所を移動したため、係留施設に係留することが可能となり、係留状況の確認等の点検作業が不要となった。

・小型漁船

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	27	ヒアリング
作業人員	(人/隻)	②	1	ヒアリング
年間点検回数	(回/年)	③	50	ヒアリング
点検時間	(時間/回)	④	0.17	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		721	①×②×③×④×⑤

9) -5.0m岸壁整備に伴う漁船修理費の削減

旋網船団の出港・帰港時の航走波により、係船中の小型漁船のロープが切れたり、錨が海中に落下する等の事象が発生し、修理を行っていたが、旋網船団が-5.0m岸壁へ係留場所を移動したことで小型漁船への影響がなくなった。

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	41	ヒアリング
修理1回当りの費用	(円/回・隻)	②	50,000	ヒアリング
年間修理回数	(回/年)	③	2	ヒアリング
年間便益額	(千円/年)		4,100	①×②×③

10) -5.0m岸壁整備に伴う漁船の耐用年数の増加

整備後、係留場所の水深が深くなったことで、漁船船底と海底の接触等がなくなり、漁船の耐用年数が増加した。

・漁業会社A旋網船団（引船、網船、灯船）

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	3	ヒアリング	
対象漁船総トン数	(t)	②	54.0	ヒアリング	
漁船建造費（FRP）	(円/t)	③	2,946,000	造船造機統計調査(H24～28)（FRP船）	
漁船の耐用年数	整備前	(年)	④	7	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
	整備後	(年)	⑤	10	ヒアリング（延長年数3年）
年間便益額	(千円/年)		6,818	②×③×(1/④-1/⑤)	

・小型漁船

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	4	ヒアリング	
対象漁船総トン数	(t)	②	13.4	ヒアリング	
漁船建造費（FRP）	(円/t)	③	2,946,000	造船造機統計調査(H24～28)（FRP船）	
漁船の耐用年数	整備前	(年)	④	7	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
	整備後	(年)	⑤	10	ヒアリング（延長年数3年）
年間便益額	(千円/年)		1,692	②×③×(1/④-1/⑤)	

・漁業会社A旋網船団（運搬船）

区分				備考	
対象漁船隻数	(隻)	①	1	ヒアリング	
対象漁船総トン数	(t)	②	254.0	ヒアリング	
漁船建造費（鋼）	(円/t)	③	3,001,000	造船造機統計調査(H24～28)（鋼船）	
漁船の耐用年数	整備前	(年)	④	9	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
	整備後	(年)	⑤	12	ヒアリング（延長年数3年）
年間便益額	(千円/年)		21,174	②×③×(1/④-1/⑤)	

(1) - 2 水産物生産コストの削減効果 【今津漁港】

1) 出漁準備・片付け時間の短縮

漁港施設の整備により静穏度が向上し、出漁準備・片付け時間が短縮された。

・刺網

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	7	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	50	ヒアリング1	
出漁準備時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング1
片付け作業時間	整備前	(時間/隻・回)	⑥	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑦	0.08	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑧	0.17	④-⑤	
片付け作業短縮時間	(時間/隻・回)	⑨	0.17	⑥-⑦	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		374	①×②×③×(⑧+⑨)×⑩	

・採貝藻(ワカメ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング1	
出漁準備時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング1
片付け作業時間	整備前	(時間/隻・回)	⑥	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑦	0.08	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑧	0.17	④-⑤	
片付け作業短縮時間	(時間/隻・回)	⑨	0.17	⑥-⑦	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		1,709	①×②×③×(⑧+⑨)×⑩	

・採貝藻(サザエ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	45	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	60	ヒアリング1	
出漁準備時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング1
片付け作業時間	整備前	(時間/隻・回)	⑥	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑦	0.08	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑧	0.17	④-⑤	
片付け作業短縮時間	(時間/隻・回)	⑨	0.17	⑥-⑦	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		2,884	①×②×③×(⑧+⑨)×⑩	

・採貝藻(モズク)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	5	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	20	ヒアリング1	
出漁準備時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング1
片付け作業時間	整備前	(時間/隻・回)	⑥	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑦	0.08	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑧	0.17	④-⑤	
片付け作業短縮時間	(時間/隻・回)	⑨	0.17	⑥-⑦	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		107	①×②×③×(⑧+⑨)×⑩	

・一本釣り

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	100	ヒアリング 1	
出漁準備時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.25	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング 1
片付け作業時間	整備前	(時間/隻・回)	⑥	0.25	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑦	0.08	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑧	0.17	④-⑤	
片付け作業短縮時間	(時間/隻・回)	⑨	0.17	⑥-⑦	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		2,137	①×②×③×(⑧+⑨)×⑩	

2) 陸揚げ時間の短縮

漁港施設の整備により静穏度が向上し、陸揚げ時間が短縮された。

・刺網

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	7	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	2	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	50	ヒアリング 1	
陸揚げ作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.58	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.25	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.33	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		726	①×②×③×⑥×⑦	

・採貝藻 (ワカメ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	2	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング 1	
陸揚げ作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.58	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.25	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.33	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		3,318	①×②×③×⑥×⑦	

・採貝藻 (サザエ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	45	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	2	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	60	ヒアリング 1	
陸揚げ作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.58	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.25	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.33	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		5,599	①×②×③×⑥×⑦	

・採貝藻 (モズク)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	5	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	2	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	20	ヒアリング 1	
陸揚げ作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.58	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.25	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.33	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		207	①×②×③×⑥×⑦	

・一本釣り

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	2	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	100	ヒアリング 1	
陸揚げ作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.58	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.25	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.33	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		4,147	①×②×③×⑥×⑦	

3) 係留作業時間の短縮

漁港施設の整備により静穏度が向上し、頑丈な係留が不要となった。

・刺網

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	7	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	50	ヒアリング 1	
係留作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.33	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.25	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		275	①×②×③×⑥×⑦	

・採貝藻 (ワカメ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング 1	
係留作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.33	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.25	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		1,257	①×②×③×⑥×⑦	

・採貝藻 (サザエ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	45	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	60	ヒアリング 1	
係留作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.33	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.25	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		2,121	①×②×③×⑥×⑦	

・採貝藻 (モズク)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	5	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	20	ヒアリング 1	
係留作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.33	ヒアリング 1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング 1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.25	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		79	①×②×③×⑥×⑦	

・一本釣り

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	100	ヒアリング1	
係留作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.33	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.25	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		1,571	①×②×③×⑥×⑦	

4) 出漁準備・片付け時間の短縮(養殖)

漁港施設の整備により静穏度が向上し、養殖業の出漁準備・片付け時間が短縮された。

・養殖物(ワカメ)

区分				備考	
養殖業経営体数(個人)	(経営体)	①	2	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁回数	(回/年)	③	80	ヒアリング1	
出漁準備時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.33	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.17	ヒアリング1
片付け作業時間	整備前	(時間/隻・回)	⑥	0.33	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑦	0.17	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑧	0.16	④-⑤	
片付け作業短縮時間	(時間/隻・回)	⑨	0.16	⑥-⑦	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		161	①×②×③×(⑧+⑨)×⑩	

5) 陸揚げ時間の短縮(養殖)

漁港施設の整備により静穏度が向上し、養殖業の陸揚げ時間が短縮された。

・養殖物(ワカメ)

区分				備考	
養殖業経営体数(個人)	(経営体)	①	2	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	2	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング1	
陸揚げ作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	1.50	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.75	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.75	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		754	①×②×③×⑥×⑦	

6) 係留作業時間の短縮(養殖)

漁港施設の整備により静穏度が向上し、頑丈な係留が不要となった。

・養殖物(ワカメ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	2	ヒアリング1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1	
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング1	
係留作業時間	整備前	(時間/隻・回)	④	0.25	ヒアリング1
	整備後	(時間/隻・回)	⑤	0.08	ヒアリング1
出漁準備短縮時間	(時間/隻・回)	⑥	0.17	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		85	①×②×③×⑥×⑦	

7) 養殖物の加工作業時間の短縮

養殖物の加工が自宅から加工場となったことで作業効率が向上し、加工時間が短縮された。

・養殖物(ワカメ)

区分				備考
養殖(加工)業経営体数	(経営体)	①	1	ヒアリング2
作業人員	(人/経営体)	②	7	ヒアリング2
年間板わかめ加工日数	(日/年)	③	80	ヒアリング2
1日当り短縮される作業時間	(時間/日)	④	2.0	ヒアリング2
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		3,519	①×②×③×④×⑤

8) 荒天時監視作業時間の削減

漁港施設の整備により静穏度が向上し、荒天時の見回り時間が削減された。

区分				備考	
監視作業人員	(人)	①	45	ヒアリング 1	
年間監視作業回数	(回/年)	②	30	ヒアリング 1	
監視作業時間	整備前	(時間/回)	③	0.67	ヒアリング 1
	整備後	(時間/回)	④	0.33	ヒアリング 1
監視作業短縮時間	(時間/回)	⑤	0.34	③-④	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		1,442	①×②×⑤×⑥	

9) 漁具等の維持管理作業時間の削減

漁港施設の整備により用地が広くなり、網等の維持管理の効率化が図られ、作業時間が削減された。

・刺網

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	7	ヒアリング 1	
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1	
年間作業回数	(回/年)	③	5	ヒアリング 1	
作業所要時間	整備前	(時間/回)	④	4.5	ヒアリング 1
	整備後	(時間/回)	⑤	3.0	ヒアリング 1
作業短縮時間	(時間/回)	⑥	1.5	④-⑤	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		165	①×②×③×⑥×⑦	

10) 漁獲物の搬送時間の短縮 (今津漁港→今津自宅)

臨港道路の拡幅整備により、搬送手段が一輪車から車となり、搬送時間が短縮された。

・刺網

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	7	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	50	ヒアリング 1	
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング 1	
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング 1	
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング 1	
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	0.6	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	1.4	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		401	①×②×③×(⑦/④-⑧/⑤)×⑥×⑨	

・採貝藻 (ワカメ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング 1	
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング 1	
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング 1	
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング 1	
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	0.6	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	1.4	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		1,835	①×②×③×(⑦/④-⑧/⑤)×⑥×⑨	

・採貝藻 (サザエ)

区分				備考	
経営体数	(経営体)	①	45	ヒアリング 1	
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1	
年間出漁日数	(日/年)	③	60	ヒアリング 1	
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング 1	
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング 1	
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング 1	
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	0.6	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	1.4	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	(千円/年)		3,096	①×②×③×(⑦/④-⑧/⑤)×⑥×⑨	

・採貝藻（モズク）

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	5	ヒアリング1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1
年間出漁日数	(日/年)	③	20	ヒアリング1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測(往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		115	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

・一本釣り

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1
年間出漁日数	(日/年)	③	100	ヒアリング1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測(往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,294	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

11) 漁具の搬送時間の短縮(今津漁港→今津自宅)

臨港道路に拡幅整備により、搬送手段が一輪車から車となり、搬送時間が短縮された。

・刺網

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	7	ヒアリング1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1
年間出漁日数	(日/年)	③	50	ヒアリング1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測(往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		401	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

・採貝藻（ワカメ）

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング1
年間出漁日数	(日/年)	③	80	ヒアリング1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測(往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		1,835	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

・採貝藻（サザエ）

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	45	ヒアリング 1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1
年間出漁日数	(日/年)	③	60	ヒアリング 1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング 1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング 1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング 1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		3,096	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

・採貝藻（モズク）

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	5	ヒアリング 1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1
年間出漁日数	(日/年)	③	20	ヒアリング 1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング 1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング 1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング 1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		115	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

・一本釣り

区分				備考
経営体数	(経営体)	①	20	ヒアリング 1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1
年間出漁日数	(日/年)	③	100	ヒアリング 1
一輪車搬送速度	(km/時間)	④	1.5	ヒアリング 1
車両搬送速度	(km/時間)	⑤	40	ヒアリング 1
平均往復回数	(回)	⑥	1	ヒアリング 1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑦	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑧	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,294	$① \times ② \times ③ \times (⑦/④ - ⑧/⑤) \times ⑥ \times ⑨$

12) 漁獲物（サザエ）の一時保管場所の移動による盗難被害削減

漁港整備により街灯が整備されたり、係留箇所の水深が深くなったことで、船に吊るして一時保管できるようになり、盗難被害がなくなった。

区分				備考
年間被害回数	(回/年)	①	4	ヒアリング 1
1 籠当りの平均重量	(kg/籠)	②	30	ヒアリング 1
1 回当りの被害籠数	(籠/回)	③	4	ヒアリング 1
1 kg当りのサザエの金額	(円/kg)	④	700	ヒアリング 1
年間便益額	(千円/年)		336	$① \times ② \times ③ \times ④$

13) 養殖物（ワカメ）の搬送時間の短縮（今津漁港⇄今津自宅）

臨港道路の拡幅整備により、搬送手段が一輪車から車となり、搬送時間が短縮された。

区分				備考
ワカメ養殖（個人）経営体数	(経営体)	①	2	ヒアリング 1
作業人員	(人/経営体)	②	1	ヒアリング 1
年間ワカメ収穫日数	(日/年)	③	80	ヒアリング 1
経営体当日収穫量	(kg/日)	④	450	ヒアリング 1
一輪車 1 回当り運送量	(kg/回)	⑤	100	ヒアリング 1
一輪車搬送速度	(km/時間)	⑥	1.5	ヒアリング 1
車両搬送速度	(km/時間)	⑦	40	ヒアリング 1
平均往復距離	整備前	(km/往復)	⑧	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復)	⑨	
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑩	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		988	$(⑧/⑥ \times ④/⑤ - ⑨/⑦ \times ①) \times ② \times ③ \times ⑩$

14) 養殖物（ワカメ）の搬送時間の短縮（今津漁港⇄加工場）

漁港整備により、養殖物の搬送先が自宅から加工場となり、搬送時間が短縮された。

区分				備考
ワカメ養殖（企業）経営体数	（経営体）	①	1	ヒアリング2
作業人員	（人／経営体）	②	7	ヒアリング2
年間ワカメ収穫日数	（日／年）	③	80	ヒアリング2
経営体当たり日収穫量	（kg／日）	④	500	ヒアリング2
一輪車1回当り運送量	（kg／回）	⑤	100	ヒアリング2
一輪車搬送速度	（km／時間）	⑥	1.5	ヒアリング2
平均往復距離	（km／往復）	⑦	0.6	地図上で計測
漁業者労務単価	（円／人・時間）	⑧	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	（千円／年）		3,519	①×②×③×⑦/⑥×④/⑤×⑧

15) 給油車による燃料運搬時間の短縮

臨港道路の拡幅整備により、給油車による燃料運搬時間が短縮された。

区分				備考	
道路整備延長（往復）	（km／往復）	①	0.6	地図上で計測（往復）	
運搬車1台当り人員	（人）	②	1	ヒアリング1	
年間運搬日数	（日／年）	③	135	ヒアリング1	
運搬車速度	整備前	（km／時間）	④	10	ヒアリング1
	整備後	（km／時間）	⑤	40	ヒアリング1
運転者労務単価	（円／人・時間）	⑥	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査（厚生労働省）	
年間便益額	（千円／年）		12	①×②×③×(1/④-1/⑤)×⑥	

16) 物揚場の浸水による清掃作業の削減

漁港施設の整備により物揚場の浸水が減少し、清掃作業回数・時間が削減された。

区分				備考	
年間清掃作業日数	整備前	（日／年）	①	3	ヒアリング1
	整備後	（日／年）	②	1	ヒアリング1
清掃人員	（人／日）	③	30	ヒアリング1	
清掃作業時間	整備前	（時間／日）	④	4	ヒアリング1
	整備後	（時間／日）	⑤	2	ヒアリング1
漁業者労務単価	（円／人・時間）	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)	
年間便益額	（千円／年）		377	(①-②)×③×(④-⑤)×⑥	

17) 他港への避難による回航経費の削減

旧漁港では、台風時に近隣の漁港へ避難していた。漁港整備により静穏度が向上し、他港避難がなくなった。

・避難回航による漁船の燃料費の節減便益

区分				備考
年間避難回数	（回／年）	①	3	台風接近数（H9～H18 平均）
対象漁船隻数（避難隻数）	（隻）	②	14	ヒアリング1
避難場所までの航路距離（往復）	（km／往復）	③	15.9	地図上で計測（往復）
避難にかかる時間（往復）	（時間／回）	④	1.66	ヒアリング1
航行速度	（km／時間）	⑤	9.6	③/④
燃費	（ℓ／8h）	⑥	30	交通船（H30漁港漁場関係工事積算基準）
燃料費	（円／ℓ）	⑦	89	A重油（島根県単価H30.4）
年間便益額	（千円／年）		134	①×②×⑤×⑥/8×⑦

・避難回航による漁船の乗組員の人件費の節減便益

区分				備考
年間避難回数	（回／年）	①	3	台風接近数（H9～H18 平均）
対象漁船隻数（避難隻数）	（隻）	②	14	ヒアリング1
避難にかかる時間（往復）	（時間／回）	③	1.66	ヒアリング1
係留作業時間（今津漁港と避難先での係留）	（時間／回）	④	0.5	ヒアリング1
平均乗組員数	（人／隻）	⑤	1	ヒアリング1
漁業者労務単価	（円／人・時間）	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	（千円／年）		285	①×②×(③+④)×⑤×⑥

・避難回航船の避難先への往復、見回りの人件費の節減便益

区分				備考
年間避難回数	(回/年)	①	3	台風接近数 (H9～H18 平均)
対象漁船隻数 (避難隻数)	(隻)	②	14	ヒアリング 1
避難場所までの陸路距離 (往復)	(km/往復)	③	9.6	地図上で計測
車両速度	(km/時間)	④	40	主要道路の制限速度
避難先への往復回数 (車)	(回)	⑤	2	ヒアリング(避難時・見回り時各1回)
見回りにかかる時間	(時間/回)	⑥	0.33	ヒアリング 1
見回り回数	(回)	⑦	1	ヒアリング 1
作業人員	(人/隻)	⑧	1	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑨	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		107	①×②×③/④×⑤+⑥×⑦)×⑧×⑨

・避難回航による送迎車両の燃料費の節減便益

区分				備考
年間避難回数	(回/年)	①	3	台風接近数 (H9～H18 平均)
送迎台数	(台)	②	14	ヒアリング 1 (避難隻数と同数)
避難 1 回当りの往復回数	(往復/回)	③	2	ヒアリング 1
避難場所までの陸路距離 (往復)	(km/往復)	④	9.6	地図上で計測
走行経費原単位	(円/km)	⑤	16.45	車種別走行経費原単位
年間便益額	(千円/年)		13	①×②×③×④×⑤

・避難回航による送迎車両の運転手の人件費節減便益

区分				備考
年間避難回数	(回/年)	①	3	台風接近数 (H9～H18 平均)
送迎台数	(台)	②	14	ヒアリング 1 (避難隻数と同数)
避難 1 回当りの往復回数	(往復/回)	③	2	ヒアリング 1
避難場所までの陸路距離 (往復)	(km/往復)	④	9.6	地図上で計測
車両速度	(km/時間)	⑤	40	主要道路の制限速度
作業人員	(人/隻)	⑥	1	ヒアリング
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	⑦	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査 (厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)		39	①×②×③×④/⑤×⑥×⑦

18) 通勤時間の短縮による経費の削減

新津漁港に現在停泊している漁船のうち1隻は、整備前は近隣漁港に係留しており、所有者は近隣漁港まで車で通勤していた。漁港整備により船の停泊可能数が増加し、今津漁港内に停泊するようになり、通勤時間が短縮された。

・今津地区～西郷漁港までの移動時間短縮便益

区分				備考
年間出漁日数	(日/年)	①	300	ヒアリング 1
通勤距離 (今津～西郷)	整備前	(km/往復) ②	11.8	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復) ③	1.0	
車両速度	(km/時間)	④	40	主要道路の制限速度による
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		255	①×(②/④-③/④)×⑤

・今津地区～西郷漁港までの車両走行経費削減便益

区分				備考
年間出漁日数	(日/年)	①	300	ヒアリング 1
通勤距離 (今津～西郷)	整備前	(km/往復) ②	11.8	地図上で計測 (往復)
	整備後	(km/往復) ③	1.0	
走行経費原単位	(円/km)	④	16.45	車種別走行経費原単位
年間便益額	(千円/年)		53	①×(②-③)×④

19) 転覆船の補修経費の削減

漁港施設の整備によって堀込漁港となり静穏度が向上したため、港内で転覆する漁船がなくなった。

区分				備考
年間転覆隻数	(隻/年)	①	3	ヒアリング 1
転覆 1 回 1 隻当り被害額	(円/隻・回)	②	800,000	ヒアリング 1
転覆を直す労力 (人数)	(人/隻)	③	15	ヒアリング 1
転覆を直す労力 (時間)	(時間/隻)	④	4	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,966	①×②+①×③×④×⑤

20) 清掃作業による廃棄物処理の削減

旧漁港では、荒天時に漂着物が漁港内に散乱し、その清掃作業に多くの労力・経費を費やしていた。漁港整備により港内への漂着物の侵入が減少し、廃棄物処理に費やしていた時間や経費等が削減された。

区分				備考	
年間清掃作業回数	整備前	(回/年)	①	3	ヒアリング1
	整備後	(回/年)	②	1	ヒアリング1
1回当り運搬車費用		(円/回)	③	19,508	H30標準積算基準
1回当り廃棄物処理量	整備前	(t/回)	④	3.0	ヒアリング1
	整備後	(t/回)	⑤	2.0	ヒアリング1
1トン当り廃棄物処理量		(円/人・時間)	⑥	10,000	隠岐の島町島後浄化センター(100円/10kg)
年間便益額		(千円/年)		109	$(①-②) \times ③ + (① \times ④ - ② \times ⑤) \times ⑥$

21) 網の落下被害の減少

堀込漁港の整備により静穏度が向上し、係船岸背後で保管している刺網が海中に落下する被害がなくなった。

区分				備考	
網の落下回数	整備前	(回/年)	①	3	ヒアリング1
	整備後	(回/年)	②	0	ヒアリング1
網回収・補修にかかる人員		(人/回)	③	2	ヒアリング1
網回収・補修にかかる時間		(時間/回)	④	4	ヒアリング1
漁業者労務単価		(円/人・時間)	⑤	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額		(千円/年)		75	$(①-②) \times ③ \times ④ \times ⑤$

22) 浚渫費用の削減効果

堀込漁港の整備により、港内への漂砂の侵入が減少し、定期的に行っていた浚渫費用が解消された。

区分				備考	
年間浚渫費用		(千円/年)	①	2,014	今津漁港維持浚渫実績(H3~H10)
年間便益額		(千円/年)		2,014	①

23) 係留資材購入費の削減

漁港施設の整備により静穏度が向上し、係留資材費が削減された。

区分				備考	
対象漁船隻数		(隻)	①	24	ヒアリング1
係留資材費	整備前	(円/隻)	②	350,000	ヒアリング1
	整備後	(円/隻)	③	230,000	ヒアリング1
係留資材の耐用年数		(年)	④	10	ヒアリング1
年間便益額		(千円/年)		288	$① \times (② - ③) / ④$

24) 防波堤・岸壁等の整備による漁船耐用年数の延長効果

区分				備考	
漁船耐用年数(FRP)	整備前	(年)	①	7	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
	整備後	(年)	②	10.17	水産庁ガイドライン参考資料(H30.5)
漁船建造費(FRP)		(円/t)	③	2,946,000	造船造機統計調査(H24~28)
漁船総トン数		(t)	④	35.0	港勢調査(H27)
年間便益額		(千円/年)		4,591	$(1/① - 1/②) \times ③ \times ④$

25) 防波堤・岸壁等の整備による遊漁船耐用年数の延長効果

区分				備考	
漁船耐用年数(FRP)	整備前	(年)	①	7	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
	整備後	(年)	②	10.17	水産庁ガイドライン参考資料(H30.5)
漁船建造費(FRP)		(円/t)	③	2,946,000	造船造機統計調査(H24~28)
漁船総トン数		(t)	④	2.8	港勢調査(H27)
年間便益額		(千円/年)		367	$(1/① - 1/②) \times ③ \times ④$

(2) 漁獲可能資源の維持・培養効果 【今津漁港】

1) 施設整備によるワカメ養殖への企業体の参入

区分				備考
今津漁港での生産量（養殖・天然）	(千円/年)	①	10,736	ヒアリング2
生産に伴う経費	(千円/年)	②	5,334	ヒアリング2
年間便益額	(千円/年)		5,402	①-②

(3) - 1 漁業就業者の労働環境改善効果 【加茂漁港】

1) -5.0m岸壁整備に伴う係留作業環境改善

・漁業会社A旋網船団（運搬船以外）

区分				備考
作業人員	(人)	①	25	ヒアリング
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間作業回数	(回/年)	④	200	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤	0.8	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,551	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

・漁業会社A旋網船団（運搬船）

区分				備考
作業人員	(人)	①	8	ヒアリング
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間作業回数	(回/年)	④	120	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤	0.8	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		490	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

・小型漁船

区分				備考
作業人員	(人)	①	41	ヒアリング
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間作業回数	(回/年)	④	200	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤	0.4	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		2,092	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

2) -5.0m岸壁背後用地整備による網作業時間環境改善

・漁業会社A旋網船団

区分				備考
作業人員	(人)	①	33	ヒアリング
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間作業回数	(回/年)	④	60	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤	4.0	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		5,052	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

・小型漁船

区分				備考
作業人員	(人)	①	30	ヒアリング
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間作業回数	(回/年)	④	50	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤	8.0	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		7,654	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

3) -5.0m岸壁整備による養殖漁業作業環境改善

・いわがき養殖

区分			備考
作業人員	(人)	① 4	ヒアリング
作業ランク	整備前	② 1.203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③ 1.000	
年間作業回数	(回/年)	④ 150	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤ 1.5	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥ 3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)	574	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

・ワカメ養殖

区分			備考
作業人員	(人)	① 4	ヒアリング
作業ランク	整備前	② 1.203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③ 1.000	
年間作業回数	(回/年)	④ 60	ヒアリング
対象作業時間	(時間/回)	⑤ 1.0	ヒアリング
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥ 3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)	153	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

(3) -2 漁業就業者の労働環境改善効果 【今津漁港】

1) 静穏度の向上による労働環境改善効果(出漁準備・片付け・陸揚げ・係留作業)

・刺網

区分			備考
対象漁船隻数	(隻)	① 7	ヒアリング 1
作業人員	(人)	② 1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③ 1.203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④ 1.000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤ 50	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥ 0.74	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦ 3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)	165	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

・採貝藻(ワカメ)

区分			備考
対象漁船隻数	(隻)	① 20	ヒアリング 1
作業人員	(人)	② 1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③ 1.203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④ 1.000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤ 80	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥ 0.74	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦ 3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)	755	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

・採貝藻(サザエ)

区分			備考
対象漁船隻数	(隻)	① 45	ヒアリング 1
作業人員	(人)	② 1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③ 1.203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④ 1.000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤ 60	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥ 0.74	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦ 3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)	1,274	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

・採貝藻（モズク）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	5	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価 (H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	20	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.74	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		47	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

・一本釣り

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	20	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価 (H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	100	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.74	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		944	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

2) 静穏度の向上による労働環境改善効果（出漁準備・片付け・陸揚げ・係留作業）

・養殖物（ワカメ）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	2	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価 (H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	80	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	1.92	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		196	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

3) 静穏度の向上による労働環境改善効果（荒天時の見回り作業）

区分				備考
作業人員	(人)	①	45	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価 (H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	④	30	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/回)	⑤	0.33	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		284	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

4) 漁港施設の整備による労働環境改善効果（漁具等の維持管理作業）

区分				備考
作業人員	(人)	①	7	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価 (H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	④	5	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/回)	⑤	3.0	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		67	$① \times (② - ③) \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

5) 漁港施設の整備による労働環境改善効果（漁獲物搬送作業の軽減）

・刺網

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	7	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価 (H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	50	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		9	$① \times ② \times (③ - ④) \times ⑤ \times ⑥ \times ⑦$

・採貝藻（ワカメ）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	20	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	80	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		41	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・採貝藻（サザエ）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	45	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	60	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		69	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・採貝藻（モズク）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	5	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	20	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		3	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・一本釣り

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	20	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	100	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		51	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

6) 臨港道路の拡幅整備による労働環境改善効果（漁具搬送作業の軽減）

・刺網

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	7	ヒアリング 1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング 1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	50	ヒアリング 1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング 1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		9	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・採貝藻（ワカメ）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	20	ヒアリング1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	80	ヒアリング1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		41	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・採貝藻（サザエ）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	45	ヒアリング1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	60	ヒアリング1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		69	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・採貝藻（モズク）

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	5	ヒアリング1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	20	ヒアリング1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		3	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

・一本釣り

区分				備考
対象漁船隻数	(隻)	①	20	ヒアリング1
作業人員	(人)	②	1	ヒアリング1
作業ランク	整備前	③	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	④	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	⑤	100	ヒアリング1
対象作業時間	(時間/日)	⑥	0.04	ヒアリング1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑦	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		51	①×②×(③-④)×⑤×⑥×⑦

7) 臨港道路の拡幅整備による労働環境改善効果（漁獲物搬送作業の軽減）

・養殖物（ワカメ）

区分				備考
作業人員	(人)	①	2	ヒアリング1
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間出漁日数	(日/年)	④	80	ヒアリング1
対象作業時間	(時間/回)	⑤	0.04	ヒアリング1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		4	①×(②-③)×④×⑤×⑥

8) 港内清掃作業時間の減少による労力の減少効果

区分				備考
作業人員	(人)	①	30	ヒアリング1
作業ランク	整備前	②	1,203	公共工事設計労務単価(H30.3 島根県)
	整備後	③	1,000	
年間清掃作業日数	(日/年)	④	1	ヒアリング1
対象作業時間	(時間/回)	⑤	2.0	ヒアリング1
漁業者労務単価	(円/人・時間)	⑥	3,142	漁業経営調査報告書(H28)
年間便益額	(千円/年)		38	①×(②-③)×④×⑤×⑥

(4) 生活環境改善効果 【今津漁港】

1) 道路整備による一般住民の利便性の向上

- ・公民館、郵便局への往復時間の短縮された。

区分				備考
公民館	年間利用日数 (日/年)	①	120	ヒアリング1 (世帯主が月10回以上利用、12ヶ月)
	1日当たり利用者数 (人/日)	②	53	ヒアリング1 (漁港整備による移転戸数)
	年間利用者数 (人/年)	③	6,360	①×②
簡易郵便局	年間利用日数 (日/年)	④	156	ヒアリング1 (世帯主が週3回利用、年間52週)
	1日当たり利用者数 (人/日)	⑤	53	ヒアリング1 (漁港整備による移転戸数)
	年間利用者数 (人/年)	⑥	8,268	④×⑤
合計年間利用者数 (公民館、郵便局) (人/年)		⑦	14,628	③+⑥
平均往復距離	整備前 (km/往復)	⑧	0.3	地図上で計測 (往復)
	整備後 (km/往復)	⑨	0.7	
徒歩速度	(km/時間)	⑩	3	ヒアリング1
車両速度	(km/時間)	⑪	40	制限速度
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	⑫	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査 (厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)		2,317	(⑧/⑩-⑨/⑪)×⑦×⑫

(5) 生命・財産保全・防衛効果 【今津漁港】

1) 堀込漁港の整備での越波・波しぶきの減少に伴う住宅の耐用年数の増加

区分				備考
住宅の耐用年数	整備前 (年)	①	19	ヒアリング1
	整備後 (年)	②	24	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
家屋平均床面積	(㎡/棟)	③	131.69	H25住宅・土地統計調査結果(総務省統計局) ; 隠岐の島町
家屋1㎡当り単価	(円/㎡)	④	177,400	治水経済調査マニュアル(案) 各種資産評価及びデフレーター(H29.2)
家屋価格	(円/棟)	⑤	23,362,000	③×④
越波、波しぶき被害棟数	(棟)	⑥	124	ヒアリング1
年間便益額	(千円/年)		31,764	(1/①-1/②)×⑤×⑥

2) 堀込漁港の整備での越波・波しぶきの減少に伴う車両の耐用年数の増加

区分				備考
車両の耐用年数	整備前 (年)	①	4	ヒアリング1
	整備後 (年)	②	5	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
車両購入費 (ライトバン2000ccクラス)	(円/台)	③	1,770,000	船舶および機械器具等の損料算定基準(H30.7)
1棟当り所有車両台数	(台/棟)	④	2.5	ヒアリング1
越波、波しぶき被害棟数	(棟)	⑤	124	ヒアリング1
年間便益額	(千円/年)		27,435	(1/①-1/②)×③×④×⑤

3) 堀込漁港の整備での越波・波しぶきの減少に伴う公共公益施設等の耐用年数の増加

区分				備考
公共公益施設等の耐用年数	整備前 (年)	①	19	ヒアリング1
	整備後 (年)	②	24	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
公共公益施設建造費	(円/㎡)	③	180,000	ヒアリング1 (600,000円/坪)
越波、波しぶき被害施設面積	(㎡)	④	2,034	施設面積総計 (3施設)
年間便益額	(千円/年)		4,014	(1/①-1/②)×③×④

4) 堀込漁港の整備での越波・波しぶきの減少に伴う水産倉庫等の耐用年数の増加

区分				備考
水産倉庫等の耐用年数	整備前 (年)	①	19	ヒアリング1
	整備後 (年)	②	24	減価償却資産の耐用年数等に関する省令
水産倉庫建造費	(円/㎡)	③	180,000	ヒアリング1 (600,000円/坪)
越波、波しぶき被害施設面積	(㎡)	④	340	漁港台帳による (4施設)
年間便益額	(千円/年)		671	(1/①-1/②)×③×④

(6) - 1 地域文化保全・継承効果 【加茂漁港】

1) 漁港用地の整備に伴う利用客の増加

区分			備考	
●釣客				
1人当りの利用時間	(時間/人)	①	3.0	ヒアリング
年間施設利用者数	(人/年)	②	480	ヒアリング(週末・祝日に5人以上が利用) 2日×4回/月×12ヶ月×5人=480人
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	③	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査(厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)	④	2,765	①×②×③
●ウォーキング				
1人当りの利用時間	(時間/人)	⑤	1.0	ヒアリング
年間施設利用者数	(人/年)	⑥	400	ヒアリング(荒天日を除く日に2人以上が利用) 200日×2人=400人
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	⑦	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査(厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)	⑧	768	⑤×⑥×⑦
合計年間便益額	(千円/年)		3,533	④+⑧

(6) - 2 地域文化保全・継承効果 【今津漁港】

2) 漁港用地の整備に伴う利用客の増加

区分			備考	
●釣客				
1人当りの利用時間	(時間/人)	①	3.0	ヒアリング 1
年間施設利用者数	(人/年)	②	480	ヒアリング 1(週末・祝日に5人以上が利用) 2日×4回/月×12ヶ月×5人=480人
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	③	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査(厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)	④	2,765	①×②×③
●ウォーキング				
1人当りの利用時間	(時間/人)	⑤	1.0	ヒアリング 1
年間施設利用者数	(人/年)	⑥	400	ヒアリング 1(荒天日を除く日に2人以上が利用) 200日×2人=400人
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	⑦	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査(厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)	⑧	768	⑤×⑥×⑦
●とんど焼き				
1人当りの利用時間	(時間/人)	⑨	2.0	ヒアリング 1
年間施設利用者数(増加数)	(人/年)	⑩	50	ヒアリング 1
一般利用者労務単価	(円/人・時間)	⑪	1,920	毎月勤労統計調査 H28地方調査(厚生労働省)
年間便益額	(千円/年)	⑫	192	⑨×⑩×⑪
合計年間便益額	(千円/年)		3,725	④+⑧+⑫

(7) その他 【加茂漁港】

1) 国土造成便益

区分			備考	
埋立用地面積	(㎡)	①	4,025.5	埋立面積
土地価格	(円/㎡)	②	6,200	都道府県地価調査(H30.7)
利子率	(%)	③	4	土地改良事業の費用対効果分析に必要な 諸係数(H21.3)
年間便益額	(千円/年)		998	①×②×③/100

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

(加茂漁港)

(3) - 1 1) -5m岸壁整備に伴う係留作業環境改善

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境	a 極めて過酷な作業環境である	5			
	b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3			
	c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●	
	d 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a 肉体的負担が極めて大きい作業	5			
	b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●		
	c 肉体的負担がある作業	1		●	
	d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(加茂漁港)

(3) - 1 2) -5m岸壁背後用地整備による網作業環境改善

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(加茂漁港)

(3) -1 3) -5m岸壁整備による養殖漁業作業環境の改善

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)-2 1) 静穏度の向上による労働環境改善効果 (刺網、採貝藻、一本釣り)

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 2) 静穏度の向上による労働環境改善効果 (養殖物(ワカメ))

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 3) 静穏度の向上による労働環境改善効果 (荒天時の見回り作業)

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 4) 漁港施設の整備による労働環境改善効果 (漁具等の維持管理作業)

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 5) 漁港施設臨港道路の拡幅整備による労働環境改善効果 (漁獲物搬送作業の軽減)

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 6) 臨港道路の拡幅整備による労働環境改善効果 (漁具搬送作業の軽減)

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 7) 臨港道路の拡幅整備による労働環境改善効果 (漁獲物搬送作業の軽減)

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C

(今津漁港)

(3)－2 8) 港内清掃作業時間の減少による労力の減少効果

労働環境評価チェックシート

		評価指標	ポイント	整備前	整備後
危険性	事故等の発生頻度	a 作業中の事故や病気等が頻発している	3		
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがあ	2		
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
	事故等の内容	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		
		c 通院不要で数日で完治するような軽いケガ	1	●	
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		●
作業環境		a 極めて過酷な作業環境である	5		
		b 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		
		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1	●	●
		d 当該地域における標準的な作業環境である	0		
重労働性		a 肉体的負担が極めて大きい作業	5		
		b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	●	
		c 肉体的負担がある作業	1		●
		d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		
評価ポイント 計				6	2
作業ランク				B	C